

登山の基本（登山のHow To） 次なるステップへ

広島県山岳連盟 事務局長 松島 宏

山好きの父親の影響で家族とのハイキングや冬のスキー等で自然の中での遊びを楽しんでいると感じていました。自然と大学のワンダーフォーゲル部に入部し、大学1年生の6月、当時吉和村の細見谷の沢登りを経験しました。その時、最大の衝撃が私を襲いました。まさに秘境の細見谷の廻行は登山が冒険や挑戦の場であることを知りました。次々と現れる滝やゴルジュ*を突破するたびに興奮し、「生きている！」という感覚を初めて感じました。大自然の中での身体を張った命がけの挑戦は私を虜にしました。



当時の私は青年の悩みを抱え、自分の性格や人間性を嫌悪している時でした。岩を夢中になって登っている自分に妙に納得し、心の底から「楽しい！」を実感しました。私の人生における最大のエポック、人生の分岐点となりました。それ以来、登山に没頭することになりました。冒険や挑戦の快感はステップアップし、いやエスカレートしていきます。以来呉市の天応、烏帽子岩山の岩場、大ナメラに通い詰めました。クライミングの楽しさは次なるステップの冬山に向かわせます。12月、冬に初めて登った大山近くの烏ヶ山^{からすがせん}。頂上北の絶壁の斜面に迷い込み、初めて「落ちる！死ぬ！」といった恐怖感を体験します。しかしその危機を突破した達成感ほまさに快感となります。ますます山登りが好きになりました。まさに「ハイリスク、ハイリターン」なのです。

そこで皆さんに提案します。読者の皆さんは春夏秋の登山、無雪期のハイキングは経験されていますが雪山の経験はないのではありませんか。ここで思い切って、冬の雪に覆われた山に踏み込んでみましょう。まずはスノートレッキングへの挑戦です。

冬山といえば、遭難、雪崩、滑落とイメージが悪いと思います。スリーシーズンのハイキングしかしません、という方がほとんどです。雪に覆われた、真っ白な世界は最高に素敵です。勇気をだして雪のフィールドに一歩を踏み出して見ましょう。近くの里山が雪に



3月の比婆山連峰

覆われたときにハイキングしてみましょう。寒い、滑るといった危険性を感じながらも、真っ白になった山の美しさに感動するはず。全ての季節の自然を楽しみましょう。

広島からなら、例えばスキー場などがある北広島町の八幡高原なんかいかがでしょうか？ 臥龍山の麓のなだらかな雪の積もった草原に足を踏み入れましょう。装備は特に意識せず。軽登山靴のままでもいいでしょう。雪原に入れば靴の中に雪が入りますので、おのずと雪用のロングスパッツや雪山用のしっかりした靴がはしくなります。寒いので冬用の衣類や手袋、ラッセルに欠かせないストックや、雪が深ければ大変なので輪かんじきやスノーシューが欲しくなるはず。雪山の美しさに感動すれば装備や機能性の高い衣類が欲しくなるはず。寒い、滑る、雪が崩れるといった危険性や恐怖感を超えた楽しさが現れてきます。雪原のトレッキングから始めてスリーシーズンに登ってきた山にもチャレ

ンジしてみましょう。雪山のルートは雪崩の心配から尾根を辿ることが原則です。夏の道は雪で覆われていますので、道はなく、自分で尾根のルートを選択して登っていきます。自分でルートを選択すればおのずと読図力が必要となり、地図と磁石に首っ引きとなるでしょう。それが登山の基本ですので、それでいいのです。自然のフィールドは多種多様です。そんな自然を思い切り楽しみましょう。日本の自然だけでなく海外の自然もまた新鮮です。

老いも若きも自然の中で遊びましょう。危険ですが、その行為は自然で、それが自然の一部の人間の原点なのです。きっと癒されている自分に気づくはず。さあ、野や山に！

(まつしま ひろし)

*ゴルジュ：沢の中に現れる、両側が岩で切り立った岩の廊下。沢は狭まり水深は深く通過が困難な箇所のこと

細見谷大龍頭

